1　教 育 目 標

（1）　学校の教育目標

優雅で格調高い校風を誇る渋谷区立常磐松小学校の児童が、普遍的かつ郷土に根差した個性的な文化の創造と豊かな社会の実現を目指し、人権尊重の教育を基本に平和的な国家及び社会の形成者として自主的精神に満ちた健全な人間として成長することを願い、学校教育を推進する。

また、開校以来の校訓である「健康・勤勉・上品」を学校の宝として継承するとともに、人と人、人と自然、人と社会との関わりを大切にし、個性を生かしながら、他者と共に生きる力をもつ児童の育成を目指す。目指す児童像として、「挑戦する子」「つながる子」「働く子」を掲げ、今年度は「つながる子」の育成を重点とする。

○挑戦する子（広い視野をもち、自ら学び、考え、挑戦する力をもって行動する児童を育成することを目標とし、自分らしい生き方ができる力を身に付けさせていく。）

◎つながる子（思いやりの心を大切にしながら、互いに相手のよさや違いを認め、協力し合う児童を育成することを目標とし、人とよりよく関わることのできる力を身に付けさせていく。）

○働　く　子（心と体を鍛え、仲間や地域のために力を発揮する児童を育成することを目標とし、社会の一員として積極的に働き、行動できる力を身に付けさせていく。）

（2）学校の教育目標を達成するための基本方針

ア　新たな学びの実現・探求学習に関する方針

（ア）学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童が生涯にわたって学び続けるための意欲・態度や生きて働く知識・技能等の資質・能力を育むため、児童主体の新たな学びを進める。教育データ等を活用し、自分の考えを深めたり発展させたりする学びを推進する。

（イ）未来を生き抜く児童が、自らの学びに合わせて、主体的にタブレット端末を活用する授業スタイルへの転換を図る。ICT やデジタル教科書を活用した授業を積極的に行い、新たな学びを展開していく。そのため、TLD を効果的に活用し、教師の ICT 活用能力をはじめとした授業力の向上を図る。また、児童に社会のためにデジタル技術を活用して適切かつ積極的に活用できる力を身に付けるための、デジタル・シティズンシップ教育を推進する。

（ウ）「シブヤ未来科」を通して、渋谷区の歴史や伝統・文化、防災や観光などについて学び、渋谷区への誇りと愛着をもつ「渋谷シティプライド」の醸成を図る。調べ学習から探究学習への転換を図り、教科横断的な探究学習を通して、社会をよりよくできる行動力を伴った未来の渋谷の創り手を育成する。

イ　安心・安全に挑戦できる教育環境についての方針

（ア）道徳教育や人権教育の充実を通して、児童が相互に心の交流を深め、思いやりや自他の生命を尊重し、相手の立場に立って考えられる態度を身に付けるとともに、児童の規範意識を高め、心豊かに安心して学校生活を送ることができるようにする。

（イ）いじめ、不登校等の課題に適切に対応するため、学校、家庭、地域、関係機関や専門家と連携した取組を行う。また、教育ダッシュボードや利用状況レポートなどの教育データを活用し、諸課題の早期発見・早期対応に努める。特に、いじめについては、常磐松小学校いじめ防止基本方針に基づき、学校の最優先課題として取り組み、学校組織全体で対応に当たる。

（ウ）全ての児童の自立と社会参加を目指し、個に応じた指導の充実を図る。配慮の必要な場面の改善、学習や生活上の困難の改善または克服のため、特別支援教育校内委員会を中心に、全教職員で適切な指導や支援を行う。

ウ　校務 DX（働き方改革）への取組についての方針

（ア）校務全般において ICT を活用し、情報の共有や打ち合わせ時間の削減、ペーパーレス化につなげる。

（イ）日常的な情報共有、伝達のツールとして Teams や H&S の活用を推進する。

エ　コミュニティ・スクールに関する方針

（ア）学校経営方針を共有し、学校と保護者、地域が一体となって、児童の健全育成にあたる。地域の教育力を生かし、信頼関係に基づく学校支援体制を確立する。

（イ）学校便り、HP、H&S、学校掲示板等を活用して学校教育に関する情報を発信し、「毎日が公開」の体制で開かれた学校に努める。

（ウ）学校評価を始めとした保護者アンケートや学校運営協議会の意見を学校運営の改善・充実に反映させ、社会に開かれた教育課程を進め、よりよい学校づくりを推進していく。

オ　特色ある教育活動についての方針

（ア）各教科等や給食の時間における食育指導を通して、一人一人の児童が、発達段階に応じて、心身の大切さについて認識し、生涯にわたって心と体の健康づくりに取り組む意欲と態度を育成する。

（イ）体育朝会、体力テスト週間、陸上記録会等の活動を通して自己の記録に挑戦する中で、体力・運動能力の向上や運動の楽しさ・喜びを大切にし、自らの健康を高める意欲や態度を育てる。

（ウ）我が国や世界の文化・伝統に対する理解を深め、相互理解の基本となるコミュニケーション能力の育成を図る。また、オリンピック・パラリンピック教育での学びの視点を踏まえ、多様性を尊重した教育の充実を図る。